

Smiling

思いをカタチに ときに創る 笑顔の学校



三川町を思い、共に調べ・考え・発信する 押切小学校6年生（第2回協議会の様子から）

三川町の小・中学校では総合的な学習の時間を活用し、三川町を「知る」こと「調べる」ことを通しながら、町の課題をつかみ、考えたことを発信しています。

押切小学校の6年生は、「協力し合える町づくり」「三川町で安全に暮らすために」「にぎやかで活気ある町にするために」の3つのグループに分かれて学習をしてきました。

学習のまとめとして、「三川町の現状」「自分たちが考える三川町の課題」「課題とどう向き合っていけばよいか」「自分たちにできること」の視点から各グループがプレゼンテーションを行ってくれました。

協議会の委員から、発表の工夫が素晴らしいこと、内容面でのさらなるアドバイスがありました。

横山小学校

- 「つなぐ」を大切にした学びの成果が、学習発表会等での子どもの姿に表れていた。
- 調査の中で、「自分にはよいところがある」「先生が自分のよいところを認めてくれる」「学校に行くのは楽しい」「友だち関係に満足している」など、よかつたところが多くあった。
- 見通す力や「横山しぐさ（ルールを守る）」の指導を重ね、児童会活動を推進しながら、折り合いをつけた生活を大切にしている。
- 自然災害等への対応として、災害備蓄食品を購入し備えることができた。

東郷小学校

- 話をしている人を見ながら聞くことや、自分から手を挙げ進んで学習に向かう姿勢を大事にし、時にはグループ形態での学習で協力しながら取り組む授業を進めてきた。
- 体育行事にあたっては、得意な子も苦手な子もいる。自分に合った「めあて」をもたせ主体的に取り組ませている。友だちの頑張りを応援するよさを引き出している。
- 時間へのけじめや自主的な奉仕活動（ちょボラ）が増えてきている。

押切小学校

- 人に伝えることを苦手としていた子どもたちが、発表する機会を多く設定することにより自信をもち、協働的な学び（グループ・ペア学習の導入）により、柔らかな雰囲気で自分の考えを伝えることができるようになってきた。
- 全校でのランチルーム給食が、学年を超えた交流により「居場所づくり」につながっている。
- 国語と算数は、全学年で TT 授業を行い、きめ細やかな指導で効果を上げている。



三川中学校

- 運動会や合唱祭を苦手とする人も、折り合いをつけ友だちのよいところを吸収しながら「自律・共生・貢献」に関わって取り組みを進めてきた。
- 「魅力ある学校づくり」に関する調査では、「学校が楽しい」「みんなで何かするのは楽しい」「授業に主体的に取り組んでいる」「授業がよくわかる」など良好な結果を示している。
- 下校時間を早めてきたことで、学習時間の確保につながってきているようだ。

第2回学校運営協議会の議事録は、三川町HPからご覧いただけます。
三川町役場HP → 「暮らし」→ 「コミュニティ・スクール」